

平成22年産及び23年産米 取引の状況について

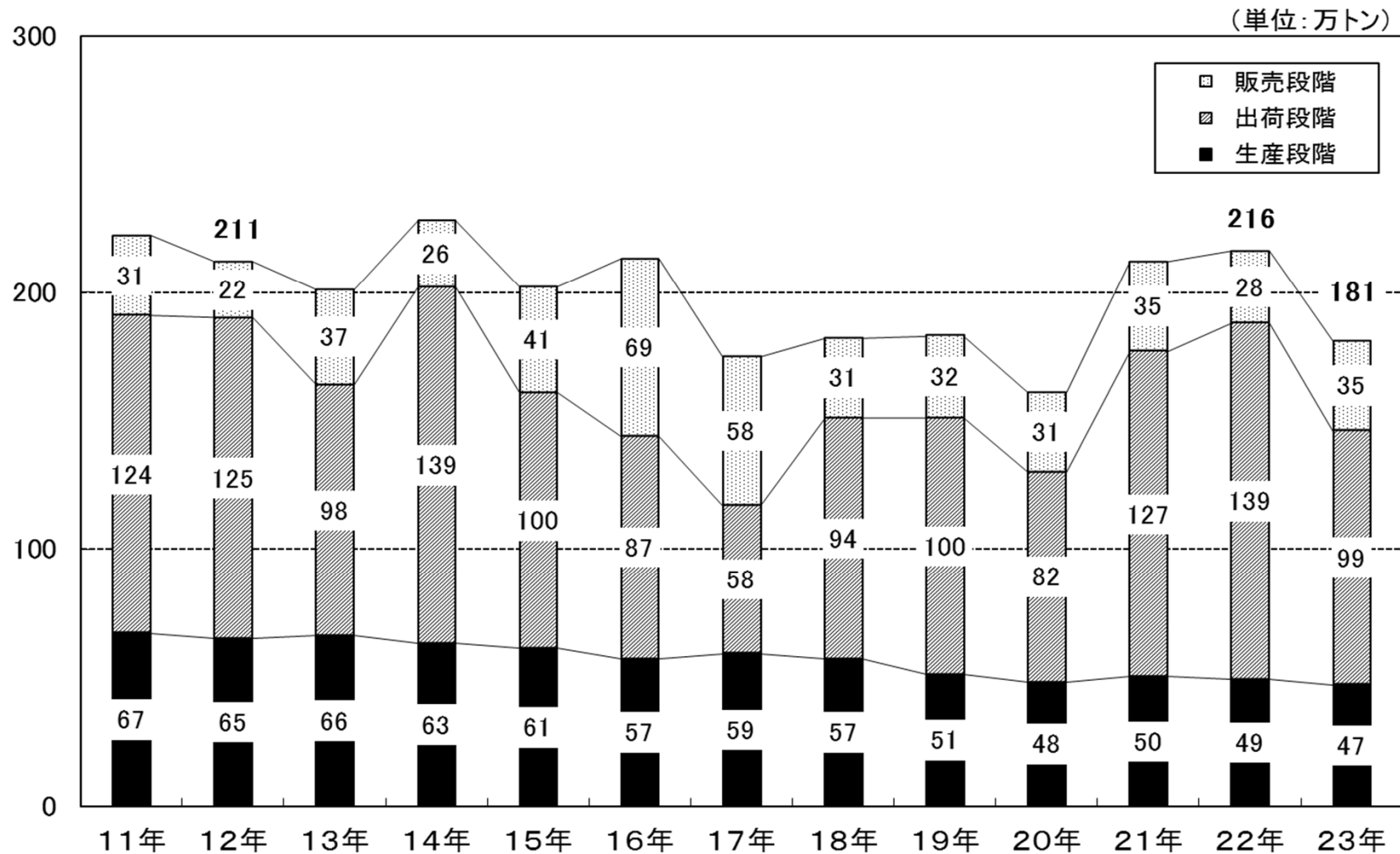
平成24年1月

農林水産省

目 次

1	民間流通における6月末在庫の推移	1
2	政府備蓄米の6月末在庫の推移	2
3	22/23年及び23/24年の米の需給見通し	3
4	平成23年産水稻うるち玄米の1等比率	4
5	平成23年度のSBS輸入の入札状況	5
6	米の相対取引価格の月別全銘柄平均の推移	6
7	産地品種銘柄別相対取引価格の推移(平成23年産)	7
8	平成23年産米の相対取引価格(平成23年11月分)	8
9	産地品種銘柄別相対取引価格の推移(平成22年産)	9
10	米の流通経路	10
11	農業予算に関する論点整理(抜粋)	11
	(参考1) 家庭における米購入量等の推移	12
	(参考2) 24年産米の政府備蓄米の買入(事前契約)	15
	(参考3) 東日本大震災を踏まえての災害時に対応した備蓄の検討	16

1 民間流通における6月末在庫の推移



資料：農林水産省調べ

注：1) うるち玄米及びもち玄米の値である。

2) 各年の民間在庫量において、

① 16年以降については、年間玄米取扱数量500トン以上の業者(販売・出荷段階)の数量である。

② 15年については、

・ 販売段階の在庫量は、年間玄米取扱数量500トン以上の旧登録卸売業者と1,000トン以上の旧登録小売業者の数量である。

・ 出荷段階の在庫量は、年間玄米取扱数量500トン以上の業者の数量である。

③ 14年以前については推計値であり、

・ 販売段階の在庫量は、卸在庫量に小売在庫量(推計)を加えた数量である。

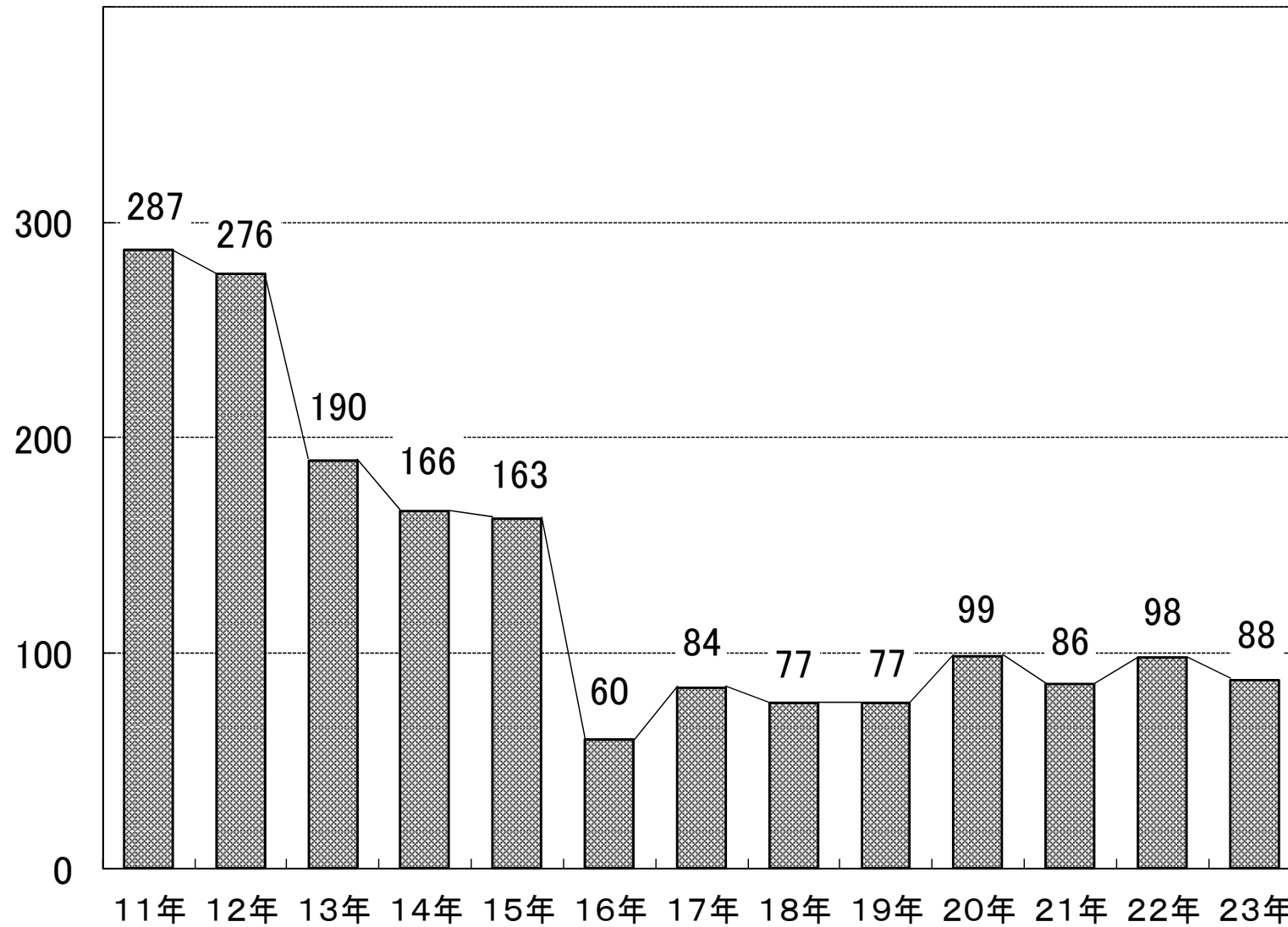
・ 出荷段階の在庫量は、系統在庫量に非系統在庫量(推計)を加えた数量である。

なお、生産段階の在庫量は、「生産者の米穀現在高等調査」を基に算出した在庫量から精米在庫量(推計)を控除した玄米在庫量である。

3) ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

2 政府備蓄米の6月末在庫の推移

(単位:万トン)



3 22/23年及び23/24年の米の需給見通し

<22/23年の需給見通し>

【22年7月指針】

		全体需給	うち政府米
22年6月末在庫量	A	316	98
22年産生産量	B	813	※0
供給量 計	C=A+B	1,129	148
需要量	D	805	※0
23年6月末在庫	E=C-D	324	98

注：※は仮置きした数量である。

【22年11月指針】

		全体需給	うち政府米
22年6月末在庫量	A	314	98
22年産生産量	B	824	※130
供給量 計	C=A+B	※2 1,138	128
需要量	D	811	※1 30
23年6月末在庫	E=C-D	※2 327	98

※1 仮置きした数量である。

※2 今後、備蓄運営方式の見直しがあれば変動する数量である。

【23年2月指針】

		主食用米等
22年6月末在庫量	A	216
22年産生産量	B	824
政府備蓄米買入量	C	▲18
米穀機構飼料用処理	D	▲15
供給量	E=A+B+C+D	1,007
需要量	F	811
23年6月末在庫	G=E-F	196

【22/23年の備蓄運営】 (単位:万トン)

		備蓄運営
22年6月末備蓄量	A	98
22年産米買入量	B	18
平成22/23年非主食用販売量	C	16
平成22/23年主食用販売量	D	0
23年6月末備蓄量	+B-C-D	100

<23/24年の需給見通し>

【23年7月指針】

		主食用米等
23年6月末在庫量	A	182
23年産米生産数量目標	B	795
原発事故による作付制限	C	▲5
地震・津波被害による生産量減少	D	▲9
県内市町村間調整・県間調整による生産量増加	E	12
平成23年産主食用米等生産量	F=B+C+D+E	793
供給量 計	G=A+F	975
需要量	H	805
24年産6月末民間在庫	I=G-H	170

【23/24年の備蓄運営】

		備蓄運営
23年6月末備蓄量	A	88
23年産米買入数量	B	※20
平成23/24年非主食用販売量	C	※20
24年6月末備蓄量	D=A+B-C	88

注：※は仮置きした数量である。

【23年11月指針】

		主食用米等
23年6月末在庫量	A	181
23年産主食用米等生産量	B	813
平成23/24年主食用米等供給量計	C=A+B	994
平成23/24年主食用米等需要量	D	805
平成24年6月末民間在庫量	E=C-D	189

【23/24年の備蓄運営】

		備蓄運営
平成23年6月末備蓄量	A	88
平成23年産米買入数量	B	※7
平成23/24年飼料用・援助用等販売量	C	※4
24年6月末備蓄量	D=A+B-C	91

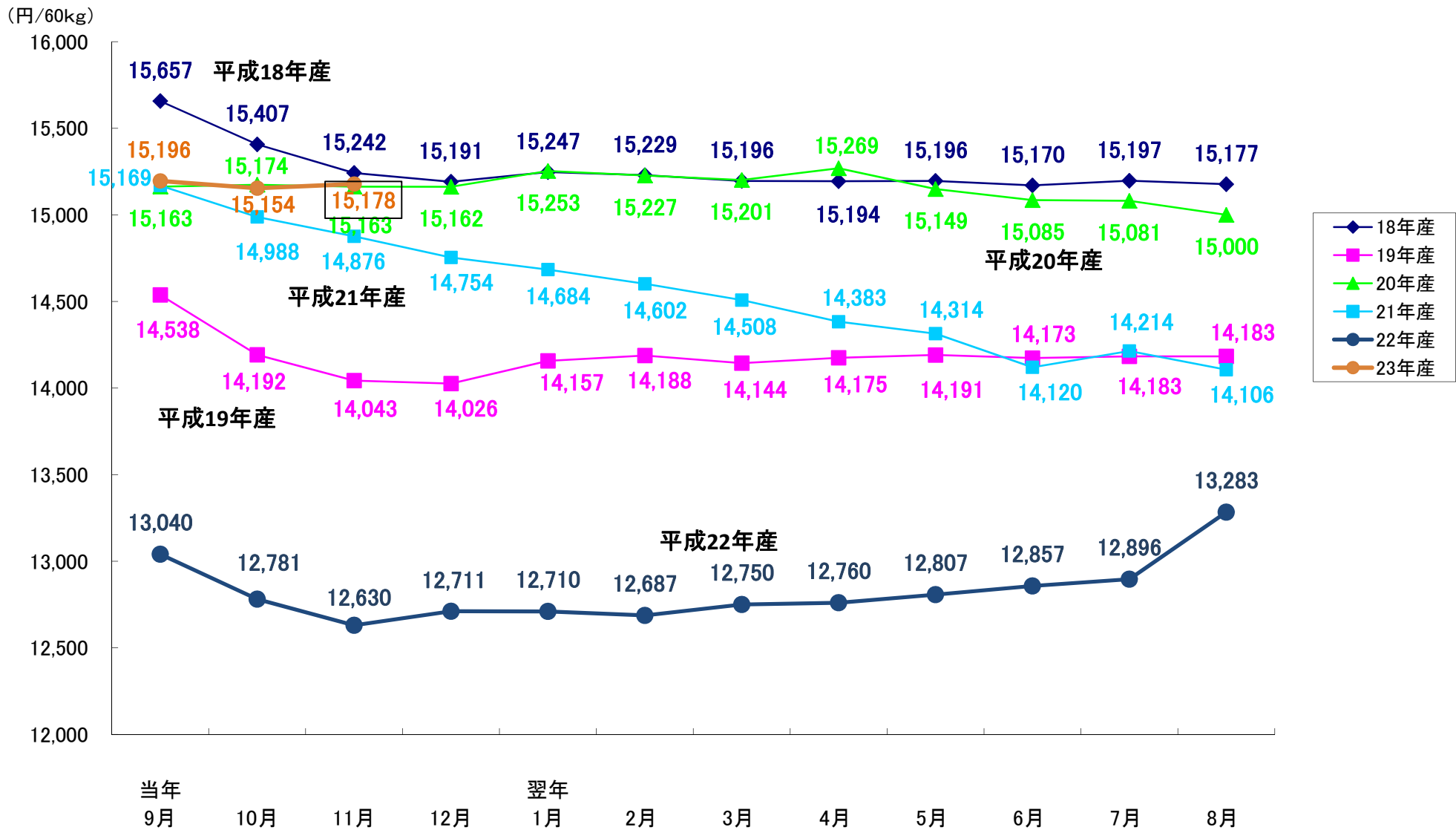
5 平成23年度のSBS輸入の入札状況

(単位:千実トン)

	計			内 訳					
	入札予定 数量	申込数量	落札数量	一般米枠			砕精米枠		
				入札予定 数量	申込数量	落札数量	入札予定 数量	申込数量	落札数量
第1回(23年 9月21日)	30.0	27.3	22.2	25.0	20.9	18.8	5.0	6.4	3.5
第2回(〃年10月28日)	30.0	33.6	26.1	25.0	23.0	21.1	5.0	10.6	5.0
第3回(〃年12月 9日)	30.0	44.3	30.0	25.0	29.4	25.0	5.0	14.8	5.0
合 計	90.0	105.2	78.3	75.0	73.4	64.9	15.0	31.8	13.5
(参考)22年度:合計9回	265.0	67.6	37.2	224.5	19.1	10.6	40.5	48.5	26.6
(参考)21年度:合計6回	128.2	184.8	100.0	111.2	150.1	79.6	17.0	34.7	20.4

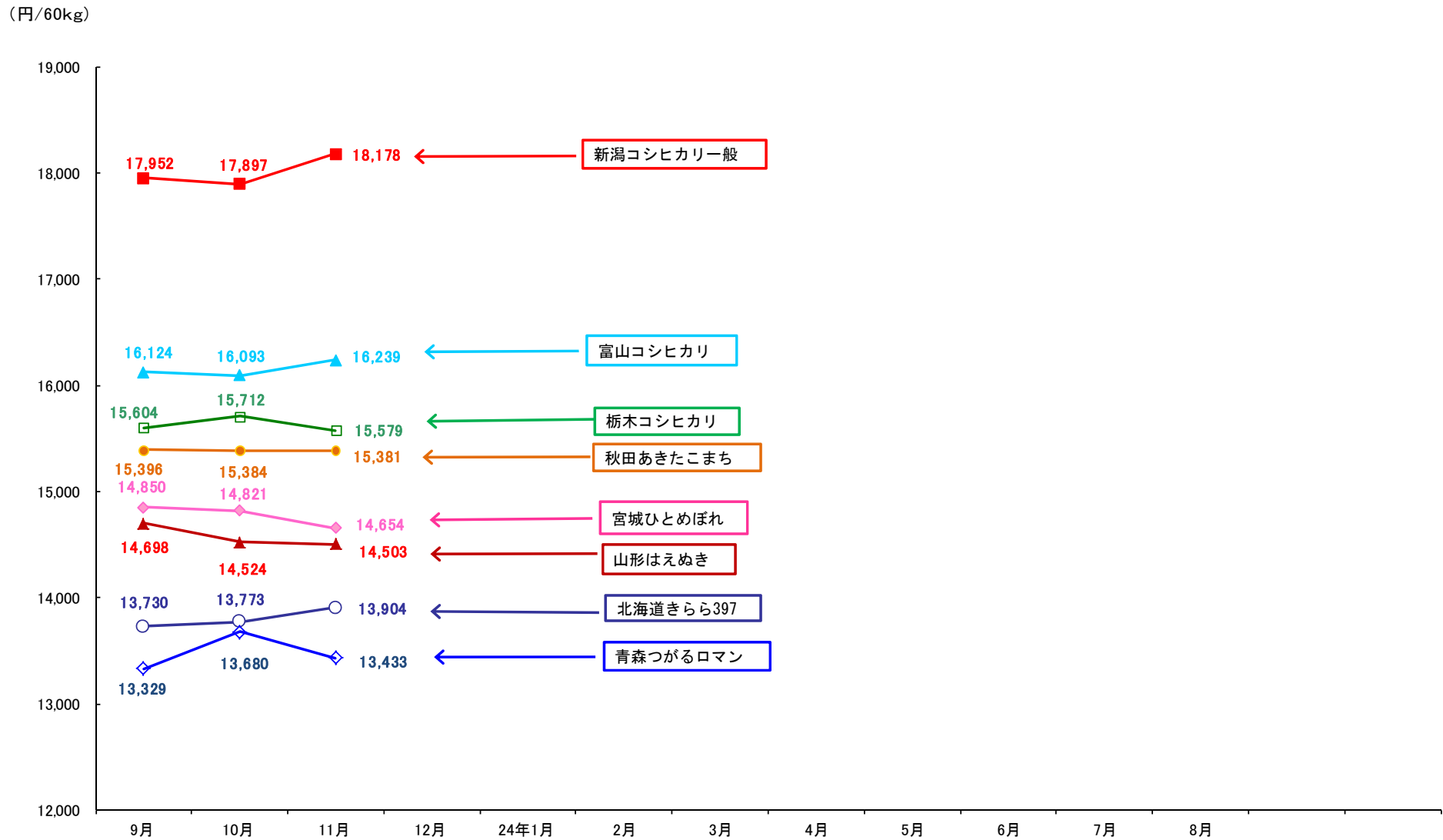
注:四捨五入の関係で計が一致しない場合がある。

6 米の相対取引価格の月別全銘柄平均の推移



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
 注1：価格には、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。
 注2：産地銘柄ごとの価格を前年産検査数量ウェイトで加重平均した価格である。

7 産地品種銘柄別相対取引価格の推移(平成23年産)



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
 (注意) 価格には、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

8 平成23年産米の相対取引価格(平成23年11月分)

(単位: 円/玄米60kg)

産地	品種銘柄	地域区分	23年11月 ①	参考			
				23年10月 ②	22年11月		対前年比 ①/③
					対前月比 ①/②	③	
北海道	きらら397		13,904	13,773	101%	11,030	126%
北海道	ななつぼし		13,880	13,924	100%	11,540	120%
青森	つがるロマン		13,433	13,680	98%	11,559	116%
青森	まっしぐら		13,341	13,417	99%	10,907	122%
岩手	ひとめぼれ		14,346	14,150	101%	11,622	123%
岩手	あきたこまち		14,315	14,296	100%	11,460	125%
宮城	ひとめぼれ		14,654	14,821	99%	12,174	120%
宮城	ササニシキ		14,813	14,733	101%	12,150	122%
秋田	あきたこまち		15,381	15,384	100%	12,404	124%
山形	はえぬき		14,503	14,524	100%	11,428	127%
福島	コシヒカリ	中通り	14,285	14,759	97%	12,282	116%
福島	コシヒカリ	会津	16,003	16,153	99%	13,583	118%
福島	ひとめぼれ		13,671	13,932	98%	11,307	121%
茨城	コシヒカリ		15,821	15,727	101%	13,033	121%
栃木	コシヒカリ		15,579	15,712	99%	12,386	126%
埼玉	彩のかがやき		14,165	14,155	100%	-	-
千葉	コシヒカリ		15,940	15,143	105%	12,720	125%
長野	コシヒカリ		15,899	15,929	100%	13,678	116%

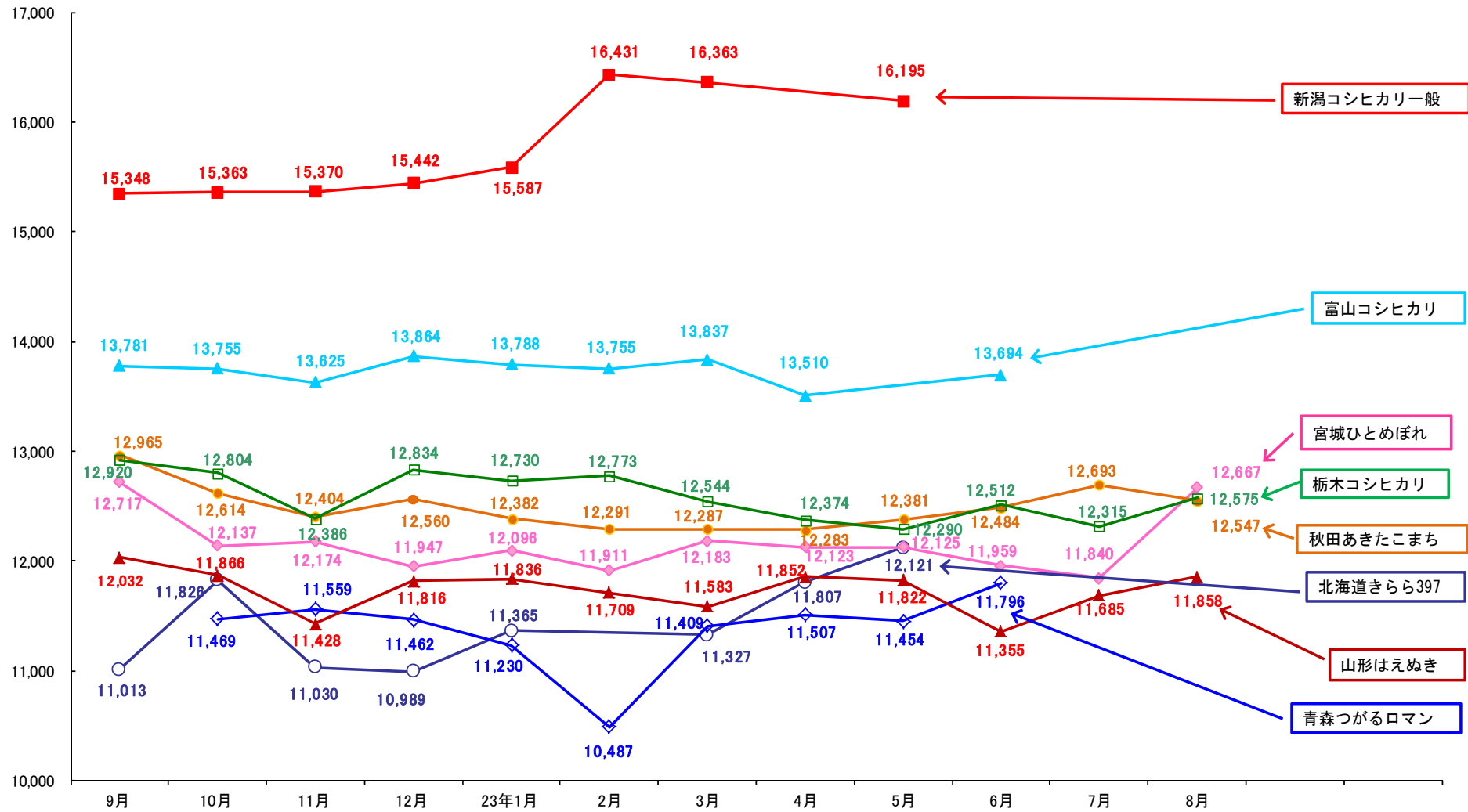
産地	品種銘柄	地域区分	23年11月 ①	参考			
				23年10月 ②	22年11月		対前年比 ①/③
					対前月比 ①/②	③	
長野	あきたこまち		14,794	-	-	-	-
新潟	コシヒカリ	一般	18,178	17,897	102%	15,370	118%
新潟	コシヒカリ	魚沼	23,111	22,741	102%	21,566	107%
新潟	コシヒカリ	岩船	18,620	-	-	15,679	119%
新潟	コシヒカリ	佐渡	18,724	18,341	102%	15,676	119%
富山	コシヒカリ		16,239	16,093	101%	13,625	119%
石川	コシヒカリ		16,092	16,290	99%	-	-
福井	コシヒカリ		16,036	16,047	100%	13,139	122%
三重	コシヒカリ	一般	15,941	15,938	100%	13,047	122%
滋賀	コシヒカリ		15,855	15,853	100%	13,352	119%
滋賀	キヌヒカリ		15,105	15,154	100%	-	-
兵庫	コシヒカリ		15,803	15,740	100%	13,613	116%
島根	コシヒカリ		15,732	-	-	12,810	123%
広島	コシヒカリ		15,112	15,007	101%	11,631	130%
徳島	コシヒカリ		14,621	-	-	13,150	111%
香川	ヒノヒカリ		14,573	-	-	-	-
福岡	ヒノヒカリ		14,710	14,631	101%	12,266	120%
佐賀	夢しずく		14,490	14,659	99%	12,113	120%
全銘柄平均価格			15,178	15,154	100%	12,630	120%

資料: 農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注: 1) 相対取引価格は、ア 全国出荷団体、イ 年間の玄米仕入数量が5,000トン以上の道県出荷団体等、ウ 年間の直接販売数量が5,000トン以上の出荷業者と卸売業者等の主食用の相対取引契約(数量と価格が決定した時点を基準としている。)の価格(運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格。)であり、その契約数量を用いて加重平均した価格である。
 その際、新潟、長野、静岡以東(東日本)の産地品種銘柄については受渡地を東日本としているものを、富山、岐阜、愛知以西(西日本)の産地品種銘柄については受渡地を西日本としているものを加重平均している。
- 2) また、相対取引価格は、個々の契約数量に応じて設定される大口割引等の割引などが適用された価格であり、実際の引取状況に応じて等級及び付加価値等(栽培方法等)の価格調整が行われることがある。
- 3) 産地品種銘柄は、ア 22年産の公表対象産地品種銘柄が存在した道府県における当該産地品種銘柄、又は、イ ア以外の道府県における22年産の検査数量の最も多かった1品種銘柄、のうち、月1,000トン以上の取引があったものである。
- 4) 全銘柄平均価格は、報告対象産地品種銘柄ごとの前年産検査数量ウェイトで加重平均した価格である。

9 産地品種銘柄別相対取引価格の推移(平成22年産)

(円/60kg)



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
 (注意) 価格には、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

10 米の流通経路

【生産段階】

(単位: 万トン)

年産	生産量																	
	出荷・販売			農家消費		無償譲渡		10a未満		その他			加工用米		もち米		減耗	
	数量	割合		数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合	
16	872	100.0%	636	72.9%	75	8.6%	55	6.3%	50	5.7%	56	6.4%	12	1.4%	27	3.1%	17	1.9%
17	906	100.0%	653	72.1%	71	7.8%	55	6.1%	57	6.3%	62	6.8%	13	1.4%	31	3.4%	18	2.0%
18	855	100.0%	631	73.8%	67	7.8%	55	6.4%	43	5.0%	59	6.9%	15	1.8%	27	3.2%	17	2.0%
19	871	100.0%	632	72.6%	63	7.2%	52	6.0%	59	6.8%	65	7.5%	17	2.0%	31	3.6%	17	2.0%
20	882	100.0%	636	72.1%	61	6.9%	53	6.0%	58	6.6%	64	7.3%	16	1.8%	30	3.4%	18	2.0%
21	847	100.0%	624	73.7%	59	7.0%	50	5.9%	52	6.1%	62	7.3%	16	1.9%	29	3.4%	17	2.0%

【出荷・販売段階】

(単位: 万トン)

年産	出荷・販売																	
	農協				全集連系業者						その他業者		生産者直接販売					
	数量		割合		販売委託		直販		数量		割合		数量		割合			
16	636	72.9%	390	44.7%	350	40.1%	40	4.6%	20	2.3%	7	0.8%	12	1.4%	59	6.8%	167	19.2%
17	653	72.1%	405	44.7%	352	38.9%	53	5.8%	22	2.4%	8	0.9%	13	1.4%	59	6.5%	167	18.4%
18	631	73.8%	384	44.9%	320	37.4%	64	7.5%	21	2.5%	9	1.1%	13	1.5%	58	6.8%	169	19.8%
19	632	72.6%	378	43.4%	308	35.4%	70	8.0%	21	2.4%	9	1.0%	13	1.5%	65	7.5%	167	19.2%
20	636	72.1%	390	44.2%	303	34.4%	87	9.9%	21	2.4%	8	0.9%	14	1.6%	59	6.7%	165	18.7%
21	624	73.7%	372	43.9%	294	34.7%	78	9.2%	22	2.6%	7	0.8%	15	1.8%	71	8.4%	159	18.8%

資料：農林水産省「作物統計」、「生産者の米穀現在高等調査」、「米穀の取引に関する報告」及び全国出荷団体調べ等を基に作成

注：1) 10a未満は、「水稻収穫量」と「生産者の米穀現在高等調査」等の差引であり、この中から一部生産者直販やその他業者販売により流通する可能性がある。

2) 生産段階には、このほか集荷円滑化対策による区分出荷米（17年産米8万ト、20年産米10万ト）がある。

3) ラウンドの関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

11 農業予算に関する論点整理(抜粋)

(農業予算に関する4大臣会合(2010年12月2日)資料)

1. 基本的な方針

今後の包括的経済連携の進展も見据え、経済連携の推進と農業の再生を両立するための方策について、「食と農林漁業の再生推進本部」において検討することとしている。

平成23年度から、農業の体質強化、6次産業化に重点を置いた一歩を踏み出すことが強いメッセージとして伝わるような施策内容とすべきである。

そのため、以下の課題に重点的に取り組むこととし、具体的な制度や予算の詳細について、本論点整理の方向性を踏まえ関係省庁で検討を行うこととする。

なお、全体を通じ、予算については、厳しい財政事情に配慮し、「財政運営戦略」と整合的に検討を行うものとする。

(中略)

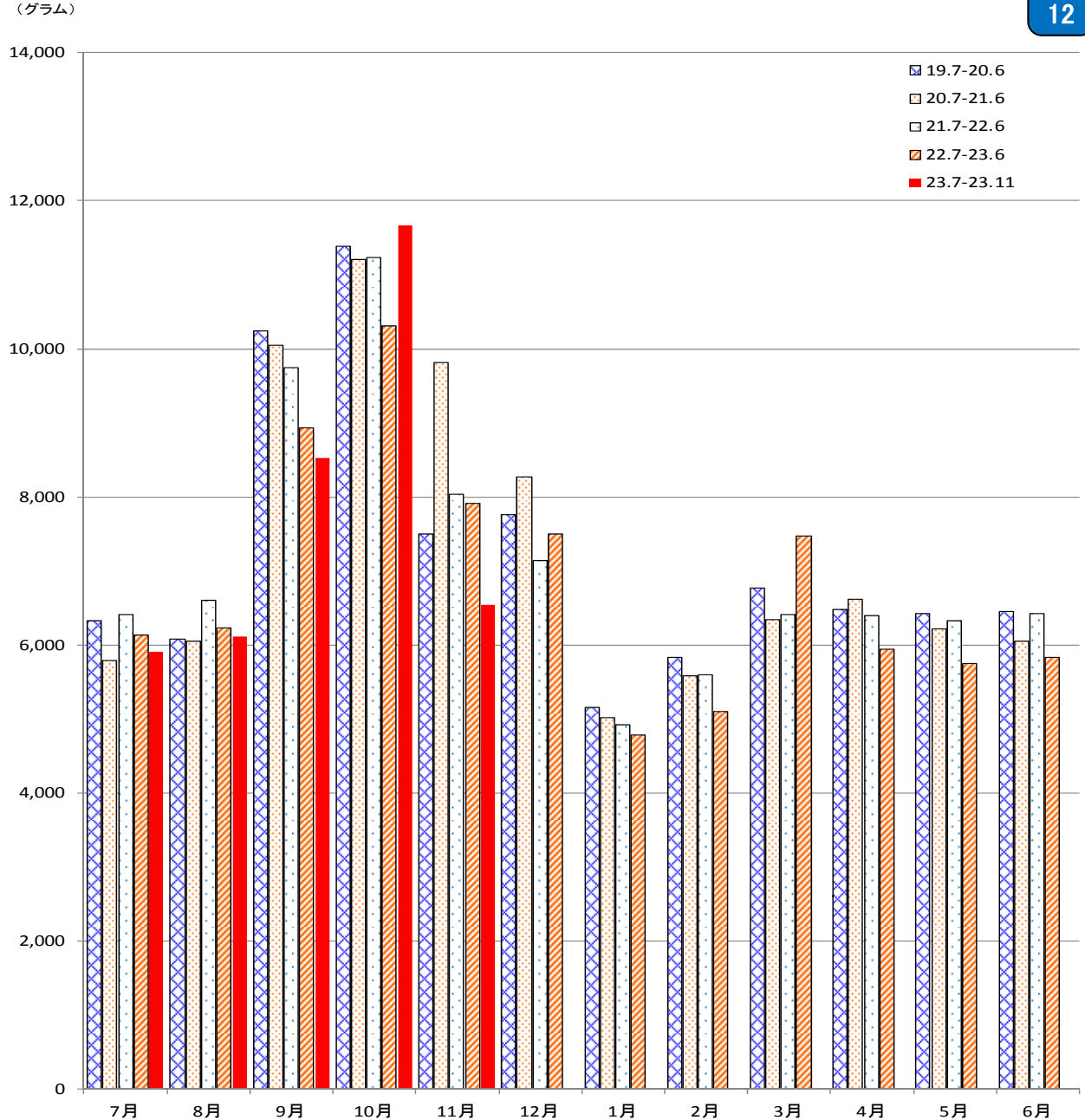
3. 戸別所得補償制度

- (1) 上記(2)の規模拡大加算の検討と併せ、需要に応じた効率的な農業生産、財源の制約等の観点から、他の加算措置や助成内容等について、精査する。
- (2) 流通業者による値引き・投げ売り等による価格下落を防止するため、需給状況を適切に反映した情報提供のあり方をはじめ、農協等の流通業者及び生産者等の販売努力を促す方策を検討する。
- (3) 戸別所得補償制度は、生産者のみならず、国産農作物の安定的な供給等を通じて、消費者・家計に恩恵をもたらすことを目的とした政策であることを、国民に分かりやすく説明する。

(後略)

(参考1) 家庭における米購入量等の推移①

(単位:グラム)				
	月間購入量	対前年同月比	年間累計	対前年比
H19.7	6,330	0.8%	86,450	2.5%
H19.8	6,080	0.3%		
H19.9	10,250	14.8%		
H19.10	11,390	▲6.0%		
H19.11	7,500	4.0%		
H19.12	7,770	▲0.4%		
H20.1	5,160	4.7%		
H20.2	5,840	2.1%		
H20.3	6,770	6.1%		
H20.4	6,480	1.9%		
H20.5	6,430	1.9%		
H20.6	6,450	3.2%		
H20.7	5,800	▲8.4%	87,050	0.7%
H20.8	6,050	▲0.5%		
H20.9	10,050	▲2.0%		
H20.10	11,210	▲1.6%		
H20.11	9,820	30.9%		
H20.12	8,270	6.4%		
H21.1	5,020	▲2.7%		
H21.2	5,590	▲4.3%		
H21.3	6,340	▲6.4%		
H21.4	6,620	2.2%		
H21.5	6,220	▲3.3%		
H21.6	6,060	▲6.0%		
H21.7	6,410	10.5%	85,300	▲2.0%
H21.8	6,610	9.3%		
H21.9	9,750	▲3.0%		
H21.10	11,240	0.3%		
H21.11	8,040	▲18.1%		
H21.12	7,150	▲13.5%		
H22.1	4,920	▲2.0%		
H22.2	5,600	0.2%		
H22.3	6,420	1.3%		
H22.4	6,400	▲3.3%		
H22.5	6,330	1.8%		
H22.6	6,430	6.1%		
H22.7	6,140	▲4.2%	81,960	▲3.9%
H22.8	6,240	▲5.6%		
H22.9	8,930	▲8.4%		
H22.10	10,310	▲8.3%		
H22.11	7,920	▲1.5%		
H22.12	7,500	4.9%		
H23.1	4,790	▲2.6%		
H23.2	5,110	▲8.8%		
H23.3	7,470	16.4%		
H23.4	5,950	▲7.0%		
H23.5	5,760	▲9.0%		
H23.6	5,840	▲9.2%		
H23.7	5,910	▲3.7%	38,750	▲2.0%
H23.8	6,110	▲2.1%		
H23.9	8,520	▲4.6%		
H23.10	11,670	13.2%		
H23.11	6,540	▲17.4%		



資料: 総務省「家計調査」(二人以上の世帯)

(参考1) 家庭における米購入量等の推移②(1世帯当たりの購入量の推移(米・パン・めん類))

(単位:g、%)

	米		パン		めん類	
		対前年 同月比		対前年 同月比		対前年 同月比
平成21年1月	5,020	▲2.7	3,521	▲2.5	2,855	8.1
2月	5,590	▲4.3	3,496	▲3.0	2,688	▲4.0
3月	6,340	▲6.4	4,032	▲2.1	3,122	4.4
4月	6,620	2.2	3,946	▲0.7	2,851	▲0.0
5月	6,220	▲3.3	4,095	4.4	3,185	6.3
6月	6,060	▲6.0	3,826	▲0.4	3,074	▲2.8
7月	6,410	10.5	3,848	4.9	3,457	2.1
8月	6,610	9.3	3,755	6.9	3,125	▲0.6
9月	9,750	▲3.0	3,880	12.0	2,530	▲0.9
10月	11,240	0.3	3,939	7.5	2,879	7.3
11月	8,040	▲18.1	3,736	6.1	2,994	6.1
12月	7,150	▲13.5	3,568	0.1	3,742	2.0
平成22年1月	4,920	▲2.0	3,673	4.3	2,966	3.9
2月	5,600	0.2	3,484	▲0.3	2,778	3.3
3月	6,420	1.3	4,119	2.2	3,135	0.4
4月	6,400	▲3.3	3,989	1.1	2,937	3.0
5月	6,330	1.8	3,954	▲3.4	3,000	▲5.8
6月	6,430	6.1	3,790	▲0.9	3,038	▲1.2
7月	6,140	▲4.2	3,850	0.1	3,503	1.3
8月	6,240	▲5.6	3,612	▲3.8	3,268	4.6
9月	8,930	▲8.4	3,663	▲5.6	2,534	0.2
10月	10,310	▲8.3	3,979	1.0	2,914	1.2
11月	7,920	▲1.5	3,700	▲1.0	3,020	0.9
12月	7,500	4.9	3,680	3.1	3,906	4.4
平成23年1月	4,790	▲2.6	3,656	▲0.5	2,875	▲3.1
2月	5,110	▲8.8	3,573	2.6	2,763	▲0.5
3月	7,470	16.4	4,088	▲0.8	3,447	10.0
4月	5,950	▲7.0	3,878	▲2.8	2,776	▲5.5
5月	5,760	▲9.0	4,015	1.5	2,958	▲1.4
6月	5,840	▲9.2	3,804	0.4	3,149	3.7
7月	5,910	▲3.7	3,640	▲5.5	3,911	11.6
8月	6,110	▲2.1	3,724	3.1	3,122	▲4.5
9月	8,520	▲4.6	3,653	▲0.3	2,583	1.9
10月	11,670	13.2	3,866	▲2.8	2,686	▲7.8
11月	6,540	▲17.4	3,700	0.0	2,893	▲4.2

資料:総務省「家計調査」(二人以上の世帯)

(参考1) 家庭における米購入量等の推移③(1世帯当たりの支出金額の推移(食料))

(単位:円、%)

	食料		米		パン		めん類		スパゲッティ		カップめん		菓子類		調理食品		外食		ハンバーガー	
		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比
12年	887,453	—	38,920	—	27,209	—	17,060	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
13年	861,235	▲3.0	37,045	▲4.8	26,062	▲4.2	16,649	▲2.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
14年	854,518	▲0.8	35,292	▲4.7	26,455	+1.5	16,754	+0.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
15年	838,918	▲1.8	35,903	+1.7	26,871	+1.6	16,473	▲1.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
16年	835,676	▲0.4	35,801	▲0.3	27,307	+1.6	16,121	▲2.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
17年	824,394	▲1.4	31,676	▲11.5	25,974	▲4.9	15,197	▲5.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
18年	891,439	+8.1	30,968	▲2.2	26,560	+2.3	16,294	+7.2	1,021	—	2,952	—	75,463	—	101,905	—	159,676	—	3,506	—
19年	901,601	+1.1	30,680	▲0.9	27,097	+2.0	16,415	+0.7	1,082	+6.0	2,941	▲0.4	76,160	+0.9	100,910	▲1.0	164,860	+3.2	3,785	+8.0
20年	905,556	+0.4	31,229	+1.8	28,127	+3.8	17,986	+9.6	1,357	+25.4	3,015	+2.5	78,970	+3.7	98,567	▲2.3	164,894	+0.0	4,046	+6.9
21年	896,129	▲1.0	30,496	▲2.3	28,966	+3.0	18,423	+2.4	1,400	+3.2	3,293	+9.2	80,403	+1.8	98,469	▲0.1	161,314	▲2.2	4,352	+7.6
22年1月	69,851	+0.4	1,815	▲0.4	2,255	▲0.3	1,369	+1.6	103	▲3.7	287	+8.3	6,395	+2.8	7,786	+2.4	14,723	+5.4	423	+14.9
2月	65,125	▲0.6	1,980	▲3.6	2,231	▲3.6	1,281	+1.2	106	▲6.2	289	+10.7	6,388	▲0.6	7,320	+0.9	11,510	+1.6	339	+11.9
3月	72,571	▲1.2	2,248	▲6.2	2,518	▲2.2	1,447	▲1.3	124	▲11.4	316	+6.4	7,189	▲2.2	7,925	+1.5	13,422	+1.0	418	+2.7
4月	69,356	▲1.7	2,259	▲7.3	2,468	▲2.0	1,364	▲4.1	116	▲7.9	271	+4.2	6,199	▲2.4	7,641	+0.7	12,413	+0.1	351	+7.7
5月	74,946	▲2.6	2,282	▲4.7	2,507	▲4.3	1,504	▲8.1	112	▲13.2	262	▲0.4	6,727	▲3.2	7,920	+1.8	14,786	▲1.7	354	▲4.3
6月	70,176	▲2.4	2,285	+1.7	2,402	▲1.4	1,612	▲2.5	98	▲10.9	223	▲2.6	5,919	▲2.9	7,597	+1.9	11,738	▲4.8	284	▲9.3
7月	74,628	▲0.2	2,183	▲6.1	2,365	▲3.0	1,895	▲3.7	97	▲11.8	222	▲5.5	6,410	±0.0	8,834	+2.2	13,235	+0.8	397	+10.9
8月	78,692	▲1.7	2,114	▲12.6	2,250	▲4.8	1,680	▲0.6	101	▲20.5	247	▲5.0	7,547	▲1.4	8,802	+1.7	15,535	▲3.1	498	+8.0
9月	70,544	▲2.4	2,927	▲8.2	2,237	▲3.1	1,280	+0.4	104	▲6.3	258	▲1.9	5,806	▲5.3	7,970	+0.5	12,306	▲6.6	337	+1.8
10月	73,492	▲0.1	3,305	▲12.1	2,381	▲1.7	1,384	▲0.6	111	+2.8	302	+3.8	5,972	▲1.0	8,485	+2.6	12,916	+1.6	343	▲8.0
11月	71,295	▲2.0	2,692	▲4.4	2,268	▲2.4	1,368	▲4.3	100	▲6.5	302	+2.7	5,898	▲3.2	8,135	+0.2	12,813	▲2.3	335	▲4.0
12月	94,091	▲0.6	2,521	▲4.3	2,294	▲3.8	1,863	▲0.7	108	▲3.6	371	▲1.1	8,411	▲3.1	11,451	+0.8	14,831	+0.3	396	+0.8
23年1月	68,124	▲2.5	1,585	▲12.7	2,192	▲2.8	1,342	▲2.0	91	▲11.7	300	+4.5	6,078	▲5.0	7,892	+1.4	14,073	▲4.4	439	+3.8
2月	65,146	+0.0	1,788	▲9.7	2,193	▲1.7	1,258	▲1.8	105	▲0.9	280	▲3.1	6,252	▲2.1	7,648	+4.5	11,558	+0.4	347	+2.4
3月	70,744	▲2.5	2,544	+13.2	2,567	+1.9	1,675	+15.8	143	+15.3	445	+40.8	6,633	▲7.7	8,194	+3.4	11,271	▲16.0	343	▲17.9
4月	68,368	▲1.4	2,018	▲10.7	2,501	+1.3	1,345	▲1.4	111	▲4.3	253	▲6.6	6,220	+0.3	7,970	+4.3	11,806	▲4.9	332	▲5.4
5月	72,572	▲3.2	1,943	▲14.9	2,518	+0.4	1,510	+0.4	111	▲0.9	263	+0.4	6,570	▲2.3	8,027	+1.4	13,703	▲7.3	368	+4.0
6月	69,241	▲1.3	1,955	▲14.4	2,319	▲3.5	1,631	+1.2	102	+4.1	240	+7.6	5,663	▲4.3	7,670	+1.0	11,615	▲1.0	306	+7.7
7月	75,050	+0.6	2,053	▲6.0	2,313	▲2.2	2,058	+8.6	102	+5.2	226	+1.8	6,333	▲1.2	9,071	+2.7	13,359	+0.9	391	▲1.5
8月	77,241	▲1.8	2,129	+0.7	2,309	+2.6	1,646	▲2.0	98	▲3.0	258	+4.5	7,250	▲3.9	8,887	+1.0	14,968	▲3.6	435	▲12.7
9月	69,496	▲1.5	2,754	▲5.9	2,268	+1.4	1,282	+0.2	103	▲1.0	273	+5.8	5,782	▲0.4	7,987	+0.2	12,021	▲2.3	352	+4.5
10月	73,052	+3.6	3,805	+15.1	2,428	+2.0	1,307	▲5.6	108	▲2.7	290	▲4.0	5,835	▲2.3	8,371	▲1.3	12,891	▲0.2	407	+18.7
11月	70,532	▲4.0	2,257	▲16.2	2,333	▲2.0	1,367	▲1.2	106	▲4.5	276	▲8.6	5,821	▲2.5	8,260	▲2.7	12,731	▲1.4	355	+3.5

資料:総務省「家計調査」(二人以上の世帯)

(参考2) 24年産米の政府備蓄米の買入(事前契約)

【24年産米の政府備蓄米買入に係る見直しの概要】

1 入札時期の早期化

第1回入札は24年1月19日に実施予定
(23年産米の第1回入札は23年2月25日)

2 実績に基づく道県別入札枠の設定

23年産米の道県別落札実績を反映して、24年産米の道県別入札枠を設定

道県別枠：74,540トン

対象道県：23年産米の落札実績がある24道県

入札方法：道県別枠は、他の道県と競争なしに、
落札者を決定

3 引渡時期の早期化

早期に落札したものは早期に引取り(早ければ24年11月)
(23年産米は24年3月中旬迄に引取り)

【24年産備蓄米の買入事前契約入札状況】

・第1回入札 1月19日

産地を指定しない枠 2,004トン落札

道県別枠 16,367トン落札

計 18,371トン落札

<今後の予定>

・第2回入札 2月7日

・第3回入札 2月下旬

・第4回入札 3月上旬

【24年産米買入れ予定数量】

200,000トン

(産地を指定しない枠)

125,460トン

(道県別枠)

(単位：トン)

産地	24年産米の 県別入札枠 (①の10トン単位)	23年産米の 落札数量 ①
北海道	7,860	7,856
青森	2,400	2,400
岩手	5,680	5,683
宮城	5,700	5,700
秋田	13,230	13,233
山形	7,690	7,689
福島	1,320	1,320
茨城	90	90
栃木	2,500	2,496
千葉	100	100
新潟	10,120	10,122
富山	7,920	7,921
石川	1,120	1,120
福井	2,430	2,434
長野	100	102
三重	700	697
岡山	180	183
広島	1,020	1,017
山口	3,000	3,003
香川	590	585
愛媛	420	422
福岡	120	120
佐賀	190	188
熊本	60	57
計	74,540	74,538

※ 道県別入札枠と産地資金は連動しない

○ 「食糧部会における米の備蓄運営についての議論の整理（平成23年8月）」（抜粋）

3 備蓄米放出の基本的なプロセス

（中略）

災害時における備蓄米放出（販売）については、東日本大震災における首都圏の一時的な供給不足等を踏まえ、別途検討。なお、災害時の放出については食糧法令において直接的な言及はないものの、販売業者だけではなく地方公共団体への販売など、従来から災害時の放出を想定した規定が置かれており、これに基づき実施。

精米備蓄実証事業（平成24年度予算概算決定：25百万円）

《背景》 ・ 東日本大震災発生後に、被災地から応急食料としての精米の供給要請
・ 大消費地である首都圏において一時的に米の品薄状態が発生

《課題》 ・ 大規模災害への備えとして、一定量の精米のストックが必要
・ 大規模災害発生直後に大都市圏で発生が想定される需要増加・精米供給能力の低下に対応する体制の確保が必要

《実証事業の概要》

- 平成24年度に政府が買い入れる備蓄米の一部を活用して、試験的に精米形態での備蓄を実施（備蓄量：500トン（東日本大震災発生～4月20日までの被災地向精米供給量に相当））
- 食味等分析試験及び販売実証（非主食として販売）を行うことにより、今後のより効率的な精米備蓄の可能性を検証